慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	堀江湛教授略歴・主要業績
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1996
Jtitle	法學研究 : 法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.69, No.12 (1996. 12) ,p.285- 297
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	堀江湛教授退職記念号
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19961228-0285

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

堀江　湛　教授　略歴

略　歴

昭和　六　年　七　月二三日　山口県に生まる
昭和一九年　四　月　東京都立第四中学校に入学
昭和二〇年　四　月　東京陸軍幼年学校に入学
昭和二〇年　八　月　敗戦により、東京都立第四中学校に復学
昭和二六年　三　月　東京都立戸山高等学校（旧都立第四高等学校）卒業
昭和二七年　四　月　慶應義塾大学法学部政治学科入学
昭和三一年　三　月　慶應義塾大学法学部政治学科卒業
昭和三一年　四　月　慶應義塾大学大学院法学研究科修士課程入学
昭和三三年　三　月　慶應義塾大学大学院法学研究科修士課程修了
昭和三三年　四　月　慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程入学
昭和三三年　四　月　慶應義塾大学副手（法学部）
昭和三六年　一　月　慶應義塾大学産業研究所研究員
昭和三六年　三　月　慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学
昭和三六年　四　月　慶應義塾大学助手（法学部）
昭和三九年　四　月　慶應義塾大学助教授（法学部）
昭和四六年　四　月　慶應義塾大学教授（法学部）

昭和四七年　四月　慶應義塾大学大学院法学研究科委員
昭和四八年　六月～同　五二年　六月　慶應義塾大学大学新聞研究所副所長
昭和五二年　六月～同　五六年　六月　慶應義塾常任理事
昭和六〇年一〇月～平成　五年　九月　慶應義塾大学法学部長・同大学大学院法学研究科委員長
平成　六年一一月～同　八年一〇月　第二九期　慶應義塾評議員

学会活動

日本政治学会理事・日本選挙学会理事・日本新聞学会元理事・日本法政学会理事　等
昭和六二年　五月～平成　元年　五月　日本選挙学会理事長

社会活動

昭和五五年　四月～同　六〇年　三月　文部省大学設置審議会専門委員
昭和六二年　一月～平成　三年一二月　法務省司法試験第二次試験考査委員（政治学）
昭和六三年　二月～同　一一月　郵政省高度映像化都市（ハイビジョン・シティ）構想懇談会委員
平成　元年　六月～平成　三年　六月　選挙制度審議会委員（同年九月より第一委員会委員長）
平成　元年一〇月～平成　五年　九月　文部省大学審議会大学院部会特別委員
平成　四年　四月～現在　政治改革推進協議会（民間政治臨調）第二委員会委員長（現・幹事）
平成　五年　一月～同　六年　四月　東京都国際政策懇談会小委員会委員長
平成　六年　七月～現在　第一六期日本学術会議会員
平成　七年　四月～現在　国家公務員採用第一種試験（行政）試験専門委員（政治学）
平成　七年　六月～現在　地方分権推進委員会委員長代理
平成　八年一二月～現在　国会等移転審議会委員

堀江　湛　教授　主要業績

一　主要著書

（単　著）

『現代の政治生活』　放送大学教育振興会　昭和六二年
『福沢先生と政治学科開設九十年』　福沢記念選書42　昭和六三年
『新しい選挙制度』　PHP研究所　平成九年
『ポリティカルライフ』　芦書房　平成九年
『政治システムと人間行動』　北樹出版　平成九年

（編著・監修等）

『都民の選択―参院選の意識調査―』（堀江湛・岩男寿美子編著）　慶應義塾大学出版会　昭和五二年
『変貌する有権者』（堀江湛編）　創世記　昭和五四年
『ワークブック政治学』（飯坂良明・堀江湛編）　有斐閣　昭和五四年
『大系民主社会主義〈全六巻・政治〉』（堀江湛編著）　文藝春秋　昭和五五年
『政治心理学』（堀江湛他編著）　北樹出版　昭和五五年
『政治学のことば』（堀江湛編著）　日本放送出版協会　昭和五五年
『日本の政党と外交政策―国際的現実との落差』（堀江湛・池井優編著）　慶應義塾大学出版会　昭和五五年

『議会デモクラシー』（飯坂良明・堀江湛他編）　学陽書房　昭和五六年
『世界政治ハンドブック』（飯坂良明・堀江湛他編）　有斐閣　昭和五七年
『現代政治学』（堀江湛・岡沢憲芙編）　法学書院　昭和五七年
『選挙とデモクラシー』（富田信男・堀江湛編）　学陽書房　昭和五七年
『新しい政治社会システム』（堀江湛編）　芦書房　昭和五九年
『政治学の方法とアプローチ』（堀江湛・花井等編著）　学陽書房　昭和五九年
『政治変動論』（チャールズ・ティリー著、堀江湛監訳）　芦書房　昭和五九年
『危機とデモクラシー』（富田信男・堀江湛編）　学陽書房　昭和六〇年
『投票行動と政治意識』（堀江湛・梅村光弘編）　慶應義塾大学出版会　昭和六一年
『情報化社会とマスコミ』（堀江湛編）　有斐閣　昭和六三年
『現代政治学辞典』（堀江湛他編）　大学教育社　平成三年
『政治改革と選挙制度』（堀江湛編）　芦書房　平成五年
『連立政権の政治学』（堀江湛・政治改革コロキアム著）　ＰＨＰ研究所　平成六年
『国会改革の政治学』（堀江湛・笠原英彦編）　ＰＨＰ研究所　平成七年
『日本の選挙と政党政治―現代の政治学Ⅰ』（堀江湛編著）　北樹出版　平成九年
『日本の公共政策と中央地方関係―現代の政治学Ⅱ』（堀江湛編著）　北樹出版　平成九年
『比較政治学と国際関係―現代の政治学Ⅲ』（堀江湛編著）　北樹出版　平成九年
『比較公共政策』（堀江湛編著）　有斐閣　平成九年

（共　著）

『日本・世論と外交』（Ｄ・Ｈ・メンデル著、中村菊男・堀江湛共訳）　時事通信社　昭和三八年
「心理学と人類学」（ジョン・ギリン編著、武田良三、米山桂三監訳『人間科学の展開』）　早稲田大学出版部　昭和三六年

「産業構造の変化と大衆の政治意識」（民主社会主義研究会議編『民主社会主義の未来像』）　中央公論社　昭和四〇年
「政治と社会学」（米山桂三編著『現代社会の社会学』）　世界書院　昭和四一年
『日本における政党と政治意識』（中村菊男編、単著一章、中村菊男との共著六章、中村菊男、中村勝範と共著一章所収）　慶應義塾大学法学研究会叢書　昭和四六年
「政治不信と社会的緊張の克服」（民主社会主義研究会議編『日本の設計』）　読売新聞社　昭和四六年
「政治学における行動論的接近の発展」（慶應義塾大学新聞研究所編『コミュニケーション行動の理論』）　慶應義塾大学出版会　昭和四七年
『標準高等　政治・経済』（高校教科書）　講談社　昭和四八年
「選挙制度と投票参加」（堀江湛他著『デモクラシーの構造―政治参加と政治学―』）　日本放送出版協会　昭和四九年
「政党の組織と機能」（内田満・内山秀夫編『政治学を学ぶ』）　有斐閣　昭和四九年
「構造改革論と日本マルクス主義―日本共産党と日本社会党の対応―」
（堀江湛、荒木義修、楠木精一郎共著・中村菊男先生追悼論文集刊行会編『中村菊男先生追悼論文集』）　新有堂　昭和五三年
『現代の政治と社会』（堀江湛他著）　北樹出版　昭和五七年
「公共政策と情報組織としての政党」（富田信男・岡沢憲芙編『情報とデモクラシー』）　学陽書房　昭和五八年
「国民の憲法意識」「参議院における比例代表制導入の問題点」（堀江湛他著『日本国憲法を考える』）　学陽書房　昭和五八年
「池田勇人内閣」（白鳥令編『日本の内閣3』）　新評論　昭和六一年
「選挙運動」「選挙結果」（杜正夫編『日本の総選挙一九八六年』）　九州大学出版会　昭和六二年
「西欧政治百年」（読売新聞調査研究本部編『西欧の議会』）　読売新聞社　平成元年
「選挙制度改革論の利害得失」（読売新聞調査研究本部編『日本の選挙・世界の選挙』）　読売新聞社　平成二年
「選挙制度の特質と将来」「現代日本の政党の課題と将来」（富田信男他五名共著『二十一世紀の政治デザイン』）　北樹出版　平成七年
「政治、行政責任と制度疲労」（読売新聞社編『内閣・行政機構　改革への提言』）　読売新聞社　平成八年

Ⅱ　主要論文

（現代政治・社会論）

「大衆政党へ脱皮するドイツ社会民主党―西独社会民主党綱領」　『論争』一巻三号　昭和三四年
「社会変動と投票行動の分化―1、2完―」　『法学研究』三五巻二号・三号　昭和三七年
「民主社会主義はなぜ定着しないのか」　『民主社会主義研究』二七号　昭和三七年
「地方選挙における政治意識」　『民主社会主義研究』三一号　昭和三八年
「民社党躍進のカギを探る」（上条末夫と共著）　『民主社会主義研究』四二号　昭和三九年
「政治行動における家族主義」　『民主社会主義研究』四九号　昭和三九年
「政治情勢の転機―日本における影響と展望―」　『三色旗』二〇二号　昭和四〇年
「読書論　政治研究のための手引書」　『三田評論』六三八号　昭和四〇年
「新しい政治学の動向」　『三田評論』六四五号　昭和四一年
「アメリカの反戦運動」　『改革者』八九号　昭和四二年
「『政治学の科学化』の意味について」　『法学研究』四二巻五号　昭和四四年
「政治学を学ぶとは」　『三色旗』二六一号　昭和四四年
「現代青年と戦後民主主義」　『自由』一二巻二一号　昭和四五年
「佐世保における原潜異常放射能事件と国民世論（外交と世論）」　『季刊　国際政治』四一号　昭和四五年
「潮田政治学における政治概念論争の意味」　『法学研究』四三巻一〇号　昭和四五年
「現代産業社会と青年の生き甲斐」　『同盟』一五〇号　昭和四五年
「紛争多発時代の復元力」　『自由』一三巻四号　昭和四六年
「七〇年代を迎えた日本の政党」　『三田評論』七〇六号　昭和四六年
「新しい教育活動の課題―外部からみた労働教育の問題点」　『月刊　ゲンセン』二一巻一一号　昭和四六年

「新しい産業社会と青年労働者問題〈上〉」『改革者』一四八号　昭和四七年
「新しい産業社会と青年労働者問題〈中〉」『改革者』一四九号　昭和四七年
「民主的労働運動と直接行動」『月刊 ゲンセン』二二巻一二号　昭和四七年
「新しい産業社会と青年労働者問題〈下〉」『改革者』一五〇号　昭和四八年
「共産党の進出と人民的議会主義」『三田評論』七二四号　昭和四八年
「流動する国民意識と民社党再建の戦略」『改革者』一五二号　昭和四八年
「選挙における争点の操作と投票行動—第一〇回参議院選挙に対する東京都での調査の中間報告」『新聞研究所年報』三号　昭和四九年
「日共・議会重視路線の裏表」『改革者』一七〇号　昭和四九年
「〝金脈〟後政治の課題」『改革者』一七五号　昭和五〇年
「選挙における争点の操作と投票行動—第一〇回参議院選挙に対する東京都での調査の中間報告—承前—」『新聞研究所年報』四号　昭和五〇年
「社会構造の変化と選挙の動態」『現代のエスプリ』九四号　昭和五〇年
「投票行動の計量分析」（前田寿一と共著）『法学研究』四九巻四号　昭和五一年
「ロッキード問題の本質と問われる議会政治の真価」『改革者』一九〇号　昭和五一年
「争点の操作と政党支持」（加藤秀治郎と共著）『法学研究』四九巻五号　昭和五一年
「変容する地方政治の構造—第九回統一地方選挙の結果と八〇年代の展望」『月刊 自由民主』二八一号　昭和五一年
「時期尚早の中道革新政権」『改革者』一九九号　昭和五二年
「岐路に立つ政治の潮流」『三田評論』七六八号　昭和五二年
「追悼・中村菊男先生」『改革者』二〇三・二〇四号　昭和五二年
「無党派層の動向と政治的均衡—参院選をふり返って—」『改革者』二〇六号　昭和五二年
「日本共産党路線の確立過程」（荒木義修と共著）『新聞研究所年報』九号　昭和五二年

「社会党のすべて」　『改革者』二〇八号　昭和五二年
「日本共産党路線の確立過程―続―」（荒木義修と共著）　『新聞研究所年報』一〇号　昭和五三年
「新自由クラブの躍進と新聞報道―総選挙における新聞報道の内容分析―」　『新聞研究』三一九号　昭和五三年
「アノミーおよび疎外概念による投票行動の計量分析―無党派層と若者の政治意識」（中村菊男先生追悼論文集）（小林良彰と共著）　『法学研究』五一巻 五号　昭和五三年
「現代の青年の批判精神」　『改革者』二一四号　昭和五三年
「民主社会主義を問い直す―議会政治と言論の自由の死活的重要性―」　『改革者』二一五号　昭和五三年
「選挙予測の計量分析―一九七七年参議院選挙の予測」（前田寿一と共著）　『新聞学評論』二七号　昭和五三年
「自由民主党における派閥の社会学的分析」（中村昭雄と共著）　『新聞研究所年報』一一号　昭和五三年
「『国会対策』的連合構想を排す―民社党に望む」　『改革者』二二七号　昭和五四年
「崩壊期にある自民党長期政権（政党の論理と体質（特集））」　『革新』一一〇号　昭和五四年
「民主党躍進の原動力と今後の課題」　『改革者』二三二号　昭和五四年
「自民党の敗北はどうして起こったか―総選挙における増税、雨、地盤」（前田寿一と共著）　『エコノミスト』五七巻五一号　昭和五四年
"THE STRUCTURAL REFORM CONTROVERSIES: Their Significance in the Japanese Communist Party and the Japan Socialist Party."（荒木義修・楠精一郎と共著）　*KEIO Journal of Politics*, No. 3, 1980
「衆参同時選挙と民社党」　『改革者』二三九号　昭和五五年
「公民選挙共闘の評価と限界」　『改革者』二四二号　昭和五五年
「選挙区特性に関する計量分析―東京都衆議院十一選挙区の分析」（小林良彰と共著）　『法学研究』五三巻一〇号　昭和五五年
「比例代表制導入の提唱とその波紋」　『三田評論』八〇八号　昭和五五年
「民社党の新党構想に望む」　『改革者』二四八号　昭和五六年
「参議院に何を求めるか―党利党略改悪案を批判す（シンポジウム）」

（林卓男、杣正夫、和田教美、作間忠雄と共著）　『革新』一三二号　昭和五六年
「同時選挙をめぐる三大紙の内容分析―大平総理の死去と新聞報道」（小林良彰と共著）　『新聞学評論』三〇号　昭和五六年
「八三年政治決戦と政党支持の構造（八三年の政治運動〈特集〉）」　『同盟』二九四号　昭和五八年
"Interpriting the Voice of the People"　*Japan Echo*, Vol.11, No.2, 1984
"Une interpréation du suffrage"　*Cahiers du Japon*, N°21, 1984
「投票行動にみる〝民意〟（第三七回総選挙の結果分析―何が自民党の議席数を減らしたのか）」　『月刊 自由民主』三三七号　昭和五九年
「選挙制度の検討―選挙区制―」（増刊総合特集「選挙」）　『ジュリスト』三八号　昭和六〇年
「第三七回総選挙の計量分析―新潟三区における田中角栄と野坂昭如をめぐる投票行動」（菅沢文明と共著）　『法学研究』五八巻 二 号　昭和六〇年
「最短距離にいるのは安倍晋太郎だ」（田中支配体制崩壊・時代の覇者は誰か〈特集〉）　『中央公論』一〇〇巻 五 号　昭和六〇年
「民社党よ、連合の相手をよく選べ」　『改革者』三〇〇号　昭和六〇年
「違憲判決の政治的意味と是正の方向」　『ジュリスト』八四四号　昭和六〇年
「高度情報化社会と地方行政」　『調査資料』五一号　昭和六〇年
「分析・八六年同日選」　『かくしん』一九三号　昭和六一年
「ダブル選挙と今後の政局」（広瀬道貞、島脩、大林主一、清水幹夫と共著）　『三田評論』八七四号　昭和六一年
「民社無用論を吹き飛ばせ」　『改革者』三一五号　昭和六一年
「自社両党支持率の長期低落と政党支持離れの進行―わが国における政党支持構造変動の計量分析―」　『選挙研究1』　昭和六一年
「売上税反対のみでなく党再建論議を（民社党）」　『改革者』三二〇号　昭和六二年
「統一地方選挙結果と今後の課題」　『どうめい』三四六号　昭和六二年

「中曾根政治の総決算」　『改革者』三二六号　昭和六二年
「合意形成の過程をさぐる世論調査」　『国際世論』　昭和六二年
"THE 1986 JAPANESE PARLIAMENTARY ELECTIONS." *KEIO Journal of Politics*, No. 6, 1988.
「苦しくとも審議拒否すべからず―民社党への提言」　『改革者』三五〇号　昭和六三年
「国際化問題研究会報告書『世界に開かれた都市の形成にむけて』（抜粋）
―第二部第三章「外国人の就業の拡大と都政への影響」　『労働法学研究会報』　昭和六三年
「公費補助で腐敗防げ―参考になる米・西独方式」　『THIS IS 読売』一〇月号　昭和六三年
「選挙制度改革のシミュレーション」（〈特集〉自民党の徹底研究・臨増）　『エコノミスト』六七巻二七号　平成元年
「民社党―立党の精神に即した独自の政策提言を」　『改革者』三五〇号　平成元年
「政治改革　進めやすい制度へ」　『THIS IS 読売』六号　平成二年
「なぜ小選挙区比例代表並立制か」（選挙制度改革の焦点〈特集〉）　『Kakushin』二三九号　平成二年
「イギリスにおける選挙裁判の制度」（櫻本正樹と共著）　『選挙研究』六号　平成三年
「小選挙区比例代表並立案の本位―はじめから『連立政権』には疑問」　『国会月報』三八巻五〇八号　平成三年
「第一二回統一地方選挙の特色と傾向」（井田正道と共著）　『都市問題』八二巻一〇号　平成三年
"Characteristics of the 12th unified Local Elections,"（井田正道と共著）
Local Government Review in Japan.　平成三年
「衆参の〝ねじれ〟は変らず」（井田正道と共著）　『THIS IS 読売』七月号　平成四年
「政界再編論の盛行で民社党に望む（核心トーク）」　『Kakushin』二七〇号　平成五年
「多党時代の政治学」　『文藝春秋』七一巻九号　平成五年
「選挙管理内閣徹すべし（政治改革政権の課題〈特集〉）」　『Kakushin』二七七号　平成五年
「政治改革の諸課題」　『社会科学研究』一三巻二一号　平成五年
「政界再編の座標軸（連立から再編へ〈特集〉）」　『Kakushin』二八三号　平成六年

「新しい日本政治の創造」　『パラダイムシリーズ』三号　平成六年
「社会党政権の成立は『ダマスカスへの道』か―村山内閣成立をめぐる各党議員の政治的態度」　『法学研究』六八巻一号　平成七年
「小選挙区比例代表並立制の導入」　『選挙』四八巻三号　平成七年
「『国会改革』緊急提言」　『Voice』二一五号　平成七年
「これでいいのか参議院―国会改革への処方せん」　『THIS IS 読売』二月号　平成八年
「『小選挙区比例代表制』で何が起こったか」　『改革者』一二月号　平成八年
「新選挙制度の意図と現実」　『THIS IS 読売』一月号　平成九年

（大学・学生問題）
「アメリカの勤労青年と大学」　『三色旗』二三四号　昭和四二年
「アメリカの反戦運動」　『改革者』　昭和四二年
「『大学立法』の問題点（その政治的背景）」（利光三津夫と共著）　『大学報』二一一号　昭和四四年
「三田フォーラム・重視したい面接と小論文」　『三田評論』六九四号　昭和四五年
「（法学部）カリキュラムの手直しと演習・ゼミナールの重要性」　『大学報』二八号　昭和四五年
「いちご白書三題・コロンビア大学の紛争」　『三田評論』六九九号　昭和四五年
「立科山荘でのゼミ合宿」　『三田評論』七三一号　昭和四八年
「討議の条件」　『塾』七三号　昭和五〇年
「塾風というもの」　『三色旗』三三三号　昭和五〇年
「義塾における研究教育水準の現状」　『大学報』八七号　昭和五三年
「学年暦変更とその波紋」　『大学報』九四号　昭和五三年
「大学父兄懇談会の意図するもの」　『大学報』一一三号　昭和五五年

「大学教員の転籍制度―慶應義塾大学における試行」　『大学時報』一六八号　昭和五八年
「慶應義塾大学法学部政治学科の回顧と現況―政治学科開設九〇年にあたって」　『法学研究』六一巻五号　昭和六三年
「大学院進学のすすめ」　『塾』一六一号　平成二年
「社会の要請に応える大学院を目指して―慶應義塾大学法学部大学院の場合―」　『私学経営』一九五号　平成三年
「慶應義塾大学の入試改善」　『大学入試フォーラム』一五号　平成四年

Ⅲ　書　評

"Geoffrey L. Goodwin; Britain and the Nations"　『国際法外交雑誌』五八巻三号　昭和三四年
「R・A・ダール『政治学における行動的アプローチ―反抗運動の勝利の記念碑銘』」　『法学研究』三五巻六号　昭和三七年
「アレックス・インケレス他著、生田正輝訳『ソヴェトの市民―全体主義社会における日常生活』」　『法学研究』三七巻四号　昭和三九年
「R・A・ダール『現代政治分析（現代政治学基礎シリーズ）』、C・R・アドリアン他著『アメリカの政治過程』」　『法学研究』三八巻九号　昭和四〇年
「アーモンド、パウエル共著『比較政治学―発展的アプローチ』」　『法学研究』四一巻九号　昭和四三年

Ⅳ　対談・座談会

「栄誉令に迎えられて」（松野頼三氏）　『三田評論』六四一号　昭和四〇年
「情報革新と塾の図書館」（E・T・ムーア氏）　『三田評論』六六七号　昭和四三年
「バークレー事件と学生運動」（ウィルダフスキー氏）　『三田評論』六七五号　昭和四三年
「紛争の渦中に考える〈座談会『米軍補助金をめぐって』〉」　『大学報』一六号　昭和四三年
「社会の信頼に応え得る大学を」（永沢邦男君）　『三田評論』六七五号　昭和四五年
「私学助成に抜本改革を」（谷川和穂君）　『三田評論』七〇八号　昭和四六年

「岐路に立つ国内政局〈座談会・司会〉」　『三田評論』七三七号　昭和四九年
「党勢拡大が勝利を生んだ（総選挙結果を総括する）」（前川一男・藤井恒男）　『革新』一一二号　昭和五四年
「多党化する政治意識〈座談会・司会〉」　『三田評論』七九八号　昭和五四年
「私学振興のあり方〈座談会・司会〉」　『三田評論』八三四号　昭和五八年
「私学助成と私学の自己採点（座談会『私学はいま』司会）」（石川忠雄・久山康・清水司・柳瀬睦男）　『大学時報』一七三号　昭和五八年
「国際化時代の地域生活（地方自治の国際化〈特集〉）」（長島キャサリン他）　『月刊 自治研』二九巻 六 号　昭和六二年
「政治経済変革への態度」（香西泰・田中直毅）　『PHASE』七五号　平成 二 年
「政治改革は首相の責任　峻厳な立法で違反の根を断て」（河野義克）　『THIS IS 読売』六 号　平成 三 年
「参議院の改革を担って―斎藤十朗君を訪ねて―」　『三田評論』一一月号　平成 七 年
「遠隔管制は要らない」（黒澤文夫氏）　『改革者』一一月号　平成 七 年
「『顔の見える政治』を実現せよ」（宇野収氏）　『改革者』一 月号　平成 八 年
「『狐議員』を排除せよ」（亀井正夫氏）　『改革者』四 月号　平成 八 年